

第27期（令和3年度）事業報告
(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

全体報告

美術館開館23年目、公益財団法人としても8年目を迎えました。本年度も新型コロナウイルス感染症の影響で事業計画の一部変更や各種イベントの中止などに直面しましたが、美術館外での新たなアウトリーチ事業にも取り組むことができ、「地域に愛され、地域の人々と一緒につくる美術館」として挑戦した一年間でもありました。

ウイズ・コロナの状況下で下記の対応をとることにより、一年間を通して美術館を支障なく運営することができました。

- ・常時、換気。
- ・鑑賞者が距離をとって鑑賞できるように余裕を持った展示の工夫。
- ・展示室入口、トイレ前、エントランスホールなど館内各所に手指消毒用アルコールを設置。
- ・閉館後、取っ手や手すり、テーブル、椅子などの手が触れやすい場所、トイレのアルコール消毒を実施。
- ・来館者との接触の多い受付、喫茶カウンターに飛沫防止シールドを設置。
- ・来館者に「入館前の検温と手指消毒」「マスクの着用」「氏名と連絡先の記載」をお願い。

令和3年5月と6月に予定していた定時の理事会と評議員会は新型コロナウイルス感染症対策として対面での開催をとりやめ、理事会はオンラインによる開催、評議員会は書面による開催とし、両会とも、第26期（令和2年度）事業報告及び決算報告などにつき承認されました。理事のうち関昭一氏と山中正竹氏が退任し、新たに江藤省三氏と佐野慎輔氏が就任しました。また、また、本年3月の第2回理事会もオンライン開催とし、第28期（令和4年度）事業計画及び収支計画などにつき承認されました。

【展覧会について】

全国区で通用する展覧会として、⑦東京2020オリンピック・パラリンピック大会を記念して、「平成時代の夏季・冬季大会で活躍した日本選手を追った写真展」と、大会終了後に「東京大会で活躍した日本選手を追った写真展」を日本雑誌協会の協力を得て2度にわたって開催しました。6月4日には、当館が立地する八色の森公園で聖火リレーのセレブレーションが挙行されました。④現代美術の作家36人の作品と地元の子どもたちの作品を共同展示する展覧会として各方面から高い評価を得ている「八色の森の美術展+八色の森の子ども絵画展」を継続開催しました（5回目）。

地域の文化活動促進に寄与する企画として、「八海山夢展」「八海山ジュニア展」「南魚沼郡市児童生徒展」「ベストショット展」を継続開催。また、地域団体との交流推進企画として、地元の医療法人と協力して「高屋肖哲・千児観音チャリティー美術展」を開催しました。

【アウトリーチ事業】

地域や学校と連携・支援する美術館の活動として、夏休みに八海山麓スキー場で開催されたイベント「八海山麓サンロックサマー」(7月31日～8月16日)に協賛・参加し、高柳グルグルハウスから借用した風ぐるま3,500本をゲレンデに設置。また、草むらに巨大迷路をつくって柏崎市在住の作家・関根哲男氏の赤フン雪妖怪などユニークな作品140点余を展示しました。

また、「八色の森の美術展+子ども絵画展」の一環として、9月6日にオンラインによる出前授業を後山小学校で実施し、東京在住の作家とZoomを使ってTシャツづくりを楽しみました。

12月24日～25日には、新潟県の助成を得て、地元にある認定こども園の園児と職員を招いて人形浄瑠璃「猿八座」の公演会を開催しました。

【ベースボール・マガジン社新潟支社との連携】

ベースボール・マガジン社新潟支社が中心となって運営する総合型地域スポーツクラブ「スポーツ&ライフ南魚沼」と連携して、美文字講座・フラワーアレンジメント教室・写真教室・エアロビクス＆ヨガ教室を館内で実施しました。

【新潟日報社との連携】

新潟日報社が運営するカルチャースクールの会場として館内を提供。仏像彫刻・ハーモニカ・太極拳・バテンレースの教室を実施しました。

【入館者数】

以下は、公益財団法人移行後の入館者数、有料入館者数です。

	入館者数（人）	有料入館者数（人）
20期（H26年度）	19,597	11,960
21期（H27年度）	16,471	7,601
22期（H28年度）	20,302	10,101
23期（H29年度）	16,186	6,905
24期（H30年度）	16,193	5,681
25期（H31年度）	16,309	5,207
26期（R2年度）	10,452	3,902
27期（R3年度）	13,307	4,965

以下は、27期（R3年度）の月別入館者数です。

月（R3年度）	入館者数（人）
4月	606
5月	403
6月	1,231
7月	1,328
8月	1,453
9月	661
10月	879
11月	1,311
12月	1,813
1月	2,388
2月	686
3月	548
合計	13,307

本年度（27期）は、新型コロナウイルス感染症の第4波（3月～6月）の影響もあり、4月と5月の来館者数は伸び悩みましたが、その後、夏場にかけては第5波（6月下旬～9月）にもかかわらず徐々に客足が増加しました。秋以降は例年並み～増加で推移していましたが、第6波（1月～現在）になって新潟県内と魚沼地域で感染者が激増し、2月～3月の来館者数が減少しました。年間では前年比127%となりました。

【事業収益の内容】

以下は、公益財団法人移行後の事業収益の内容です。

	入館料収入	企画事業 収入	カード ショ一収入	売店収入	喫茶収入	委託販売 手数料	合計（円）
20期	5,552,515	3,782,688	1,377,220	3,963,328	1,181,938		15,857,689
21期	3,679,790	6,848,309	1,187,600	2,459,667	1,095,161		15,270,527
22期	5,316,582	1,142,766	1,142,800	3,642,463	961,829		12,206,440
23期	3,789,970	1,339,159	1,403,760	1,418,750	827,992	86,996	8,866,627
24期	3,812,030	819,690	1,229,000	1,323,570	996,766	60,000	8,241,056
25期	3,722,840	4,383,974	1,121,400	2,982,806	758,410	6,000	12,975,430
26期	2,392,850	3,155,953	0	1,439,454	460,938	40,000	7,489,195
27期	2,828,600	3,125,372	1,342,050	1,264,918	556,494	38,000	9,155,434

本年度（27期）の事業収益については、入館料（前年比118%）、企画事業（同99%）、売店（同88%）、喫茶（同120%）となり、カードショーや予定通り年間3回開催したことにより、全体では前年比122%となりました。

※ 第20期（平成26年度）は「国民栄誉賞受賞記念の長嶋茂雄展」、南魚沼市市制10周年記念事業として採択された「石川雲蝶展」「星野富弘展」の大型企画が3本あり、入館者数が増加。グッズや小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第21期（平成27年度）は絵画1点の委託販売料（224万円）と文化庁からの企画展助成金（333万円）があったため企画事業収入が増加しています。

第22期（平成28年度）は「錯覚展」がマスコミ各社に大きく取り上げられた結果、冬期間の来館者数・入館料が大幅に増加しました。小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第23期（平成29年度）は前期と比較して、1月～2月の豪雪・悪天候も影響したため、冬期間の入館者数と入館料が減少しました。

第24期はイベント時のスポーツウェア販売が落ち込んだため企画事業収入が減少しました。

第25期の企画事業収入が前年に比べて増加しているのは、「八色の森の美術展」記録集制作にあたっての協賛金・広告費収入、「ふれる かんじる 楽しい美術展」開催にあたっての新潟県からの援助などによるものです。また、売店収入の増加は小作品と画集の委託販売収入によるものです。

なお、23期以降の委託販売手数料は「ベーマガ米」の販売手数料です。

【各種補助金・支援金、助成金】

新型コロナウイルス感染症対策として国（文化庁、中小企業庁）と南魚沼市から事業継続のための補助金・支援金、内田エネルギー科学振興財団とカメイ社会教育振興財団からは「八色の森の美術展+八色の森の子ども絵画展」に対して助成金がありました。

補助金	南魚沼市	新型コロナウイルス感染症対策による令和2年度補填金	857,585円
補助金	文化庁	文化芸術振興費補助金	212,000円
雑収益	中小企業庁	一時支援金	600,000円
雑収益	中小企業庁	月次支援金	200,000円
民間助成金	内田エネルギー 科学振興財団	地域活性化活動・再生活動事業費助成	200,000円
民間助成金	カメイ社会教育 振興財団	文化及び芸術等の振興に対する助成	150,000円

【年間パスポート】

平成28年度から発行している年間パスポート（3,000円）の会員数は56人、平成30年度から新たに開始した法人パスポート（10,000円）の会員数は8件です。同じく、喫茶収入を増やすために、平成30年度から始めたドリンクチケット（5杯つづり1,000円）は年間137枚の需要がありました。

【援助事業】

公募によって募集した「環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業」については応募がなく、実施できませんでした。

以下、援助事業、美術館事業、スポーツ協賛事業、収益事業などにつき説明いたします。

1、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業

公募により、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流事業に対して援助（1件 10万円、2件以内）となっていましたが、応募はありませんでした。

2、国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業

※偶数年に募集する隔年事業のため、今年度は募集しませんでした。

3、美術館事業

1) 展覧会

① 錯覚展 2021 杉原教授の不思議な世界

■会期：1月 23 日（土）～4月 19 日（月） ■72日間 ■来館者数 2,872 人

ベスト錯覚コンテスト世界大会で4度の優勝実績を持つ明治大学研究特別教授・杉原厚吉氏が制作した錯視作品を展示。新作とともに、エントランスホールに木製の大きな錯覚すべり台を設置しました。また、3月 14 日には八海山麓スキー場の特設会場に「雪の錯覚すべり台」をつくって一般公開しました。

② ふれても ふれない 美術展

■会期：3月 13 日（土）～4月 19 日（月） ■33日間 ■来館者数 1,242 人

2019年に9月に開催した「ふれる かんじる 楽しい美術展」を引き継ぎ、障害のある人もない人も、芸術作品にふれたり、さわったりできる美術展として開催。県内の主要作家 18人が参加。コロナ禍という状況下、会場入口に「使い捨て手袋」を用意して、鑑賞者には手袋という皮膜を介して作品にふれてもらう仕掛けをつくりました。

③ 雨宮一正 収蔵品展

■会期：4月 24 日（土）～5月 23 日（日） ■26日間 ■来館者数 395 人

事業計画では小出雄次彫刻展の予定でしたが、小出氏がお亡くなりになつたため、急遽、収蔵品展に変更しました。池田記念美術館では彫刻家の雨宮一正氏の作品を多数収蔵しており、それらを一堂に展示しました。収蔵品のほか、BBM 新潟支社保管のハンガリーやシベリア鉄道の風景を描いた水彩画と版画も展示しました。

④ 日本雑誌協会スポーツ報道写真展「平成アスリート戦記」

■会期：5月 29 日（土）～7月 12 日（月） ■39日間 ■来館者数 1,725 人

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会が目前に迫る中で開催しました。平成時代に

開催されたオリンピック大会（1992年のバルセロナ大会から2018年の平昌冬季大会まで）で活躍した日本人アスリートの姿を、日本雑誌協会派遣のカメラマンが追った報道写真展で、歴史を振り返りながら東京大会を応援しました。

⑤ 高屋肖哲の千児観音チャリティー美術展

■会期：6月4日（金）～7月5日（月） ■28日間 ■来館者数1,504人

主催は、高屋肖哲の千児観音チャリティー実行委員会。狩野芳崖の弟子であり、日本画家の高屋肖哲の「千児観音図」と医療法人萌氣会前理事長の黒岩卓夫氏が所蔵する未発表作品を展示。また金沢美術工芸大学の所蔵する肖哲作品を借用し、合計で21点を展示しました。コロナ禍で経済的に困窮する母子の支援を目的に、「浦佐にみんなの冷蔵庫」を設置。そのための費用をクラウドファンディングや会場の募金箱で集めて実施しました。

⑥ 第22回 八海山夢展

■会期：7月17日（土）～8月30日（月） ■39日間 ■来館者数2,385人

魚沼の美術愛好家を中心に、絵画・書道・写真・水石・工芸の5部門で作品展示。主催は八海山夢展実行委員会。当館は事務局として展覧会の運営全般を担当しました。地元の美術振興を目的に創設し、今年で22回目の開催となり、105人130点の作品を展示しました。また、イベントも開催。出展者が説明する「夢展ミニガイド」のほか、「陶芸体験教室」「うちわ作り体験」のワークショップを実施しました。

⑦ [同時開催] 第4回 八海山ジュニア展

■会期：7月17日（土）～8月30日（月） ■39日間 ■来館者数2,385人

「八海山夢展」の期間に合わせて、令和2年度新潟県ジュニア美術展覧会の入賞作品を展示。今年から南魚沼市内だけでなく、魚沼市内の児童生徒の作品も紹介することに変更しました。

⑧ 第5回 八色の森の美術展+子ども絵画展

■会期：9月4日（土）～10月24日（日） ■44日間 ■来館者数1,394人

全国各地から現代美術の作家36人が絵画、彫刻、写真、インスタレーション、人形などの作品を出品。オンライン出前授業や野外ワークショップで地元の園児・児童が制作した造形作品と一緒に共同展示しました。会期中、ギャラリートーク、基調講演、文化講座、哲学対話教室などを開催。多彩な作品展示と関連イベントによって各方面から高く評価されている展覧会として、5年連続の開催となりました。

⑨ 第51回（絵画・彫刻）二科新潟支部展

■会期：10月30日（土）～11月23日（火・祝） ■22日間 ■来館者数1,184人

美術団体・二科会の新潟支部会員の会員展。1914年創立の二科会は発足以来、視野を一方に向に限定せず、新しい表現価値の創造に向かって不断の追究を期することを信条としています。会員の創作の自由を擁護し、個性を尊重するとし、会員展でも様々な個性的な作品を鑑賞することができます。絵画43点、彫刻9点、合計52点を展示しました。

⑩ 動物画家・薮内正幸 絵本の世界—生きる歓び・いのちの輝き—

■会期：11月27日（土）～12月23日（木） ■23日間 ■来館者数2,060人

動物画家として絵本や図鑑を制作してきた薮内正幸氏の原画展。前年に引き続き、浦佐認定こども園の開園10周年記念事業として、こども園主催で開催しました。今回の展覧会は近年になって発見された『ちーたーのロンボ』の原画のほか、『サバンナの二つの星』『くちばし』の原画など山梨県の薮内正幸絵本美術展所蔵の76点を展示しました。

⑪ 日本雑誌協会「東京オリンピック報道写真展」

■会期：11月27日（土）～1月18日（火） ■41日間 ■来館者数4,363人

コロナ禍で開催が1年延期され、無観客で行われた東京オリンピック。世論は手放しで歓迎する雰囲気ではありませんでしたが、日本人選手のメダルラッシュが続き、その選手たちの技や歓喜の表情が次第に雰囲気を盛り上げていきました。日本雑誌協会の精鋭カメラマンが活写した日本人選手の活躍を東京、大阪に続き当地で巡回開催しました。

⑫ 第66回 南魚沼郡市児童生徒美術展

■会期：1月6日（木）～1月18日（火） ■12日間 ■来館者数1,991人

南魚沼市及び湯沢町の子どもたちの作品約450点を展示。子どもたちの創作意欲が「いきいき」と伝わってくる展覧会でした。作品解説会は開催できませんでしたが、家族で来館していただけるよう例年同様に期間中は入館無料としました（南魚沼市と湯沢町から入館料の補助があります）。

⑬ 魚沼ベストショット展 Part XI

■会期：1月22日（土）～3月6日（日） ■38日間 ■来館者数1,306人

県内外から54人の出展者と、特別参加の高校写真部生徒14名が参加。魚沼地域の変化に富んだ美しい自然・風景や風習などを撮影した自慢のベストショットを展出し、魚沼からのメッセージをより広く発信することができました。

⑭ 秋元貴美子写真展「都市と自然のエレメンツ」

■会期：1月22日（土）～4月14日（木）〔会期延長〕 ■67日間 ■来館者数1,902人

写真家として、また日本大学芸術学部写真学科教授として活躍する秋元貴美子氏の写真展。都市風景や自然のエレメンツ（地水火風空）に着目し、個性豊かな写真世界を表現し続ける秋元氏の今回の写真展は多くのマスコミに取り上げられ、好評につき会期を延長しました。

⑮ 池田記念美術館収蔵品展－東欧の絵画とナイーヴ・アート－

■会期：3月12日（土）～4月14日（木） ■29日間 ■来館者数596人

東欧の画家の作品、ブルガリアのカジム・イシノフ、旧ユーゴスラビア出身のボグダン・クルシチや、ナイーヴ派の画家でマルティン・ヨナシュ、マリヤ・バランなど、初公開の作品も含め約46点を展示しました。

⑯ 第5回 錯覚展

■会期：3月12日（土）～5月8日（日） ■46日間 ■来館者数1,100人（4月29日現在）

ベスト錯覚コンテストの世界大会で4度の優勝実績を持つ錯視研究の第一人者、明治大学研究特別教授の杉原厚吉先生が制作した、実際とは違うように見えてしまう作品を中心とした展示しました。3月に予定していた「雪の錯覚すべり台」の制作はコロナ禍で中止しました。

2) スポーツ関係部門

スポーツ文化展示室のオリンピックコーナー、野球コーナーの充実を図りました。東京オリンピック関連として、展覧会を年間2度開催しました。

4、スポーツ協賛事業

スポーツイベントに積極的に参加し、主催、協賛、実行委員会参加などによって、地域とのスポーツ交流を促進していく予定でしたが、コロナ禍のため「水無渓谷リバーウォーク」「八海山麓ホワイトカーニバル2022」以外は中止となりました。

① ベースボール・マガジン旗争奪上越沿線少年親善野球大会

日時：2021年5月29日（土）～30日（日） 【中止】

主催：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団／株式会社ベースボール・マガジン社

共催：魚沼市教育委員会 主管：魚沼市野球連盟 後援：魚沼市体育協会

会場：広神野球場、薬師運動広場、青島野球場、小出中学校

※コロナ禍のため、記念講演会は中止。

② さわやかジョギング大会

日時：2021年6月13日（土）9:00～11:30 【中止】

主催：南魚沼市教育委員会

協賛：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団／株式会社ベースボール・マガジン社

会場：八色の森公園周辺特設コース

③ 南魚沼グルメマラソン

日時：2021年6月14日（日）8:30～17:00 【中止】

主催：南魚沼グルメマラソン実行委員会

④ 八色の森健康ウォーキング

日時：2021年9月23日（木・祝）9:00～12:30 【中止】

主催：八色の森健康ウォーキング実行委員会

会場：八色の森公園周辺特設コース

⑤ 水無渓谷リバーオーク

日時：2021年10月24日（日） 8:00～14:00 【実施】

主催：水無渓谷リバーオーク実行委員会

会場：八海山麓サイクリングターミナル周辺特設コース

⑥ 八色の森公園子ども雪まつり

日時：2022年3月6日（日） 9:00～15:00 【中止】

主催：浦佐こども雪まつり実行委員会

会場：八色の森公園特設会場

⑦ 八海山麓ホワイトカーニバル 2022

日時：2022年3月13日（日） 11:00～15:00 【縮小して実施】

主催：八海山麓ホワイトカーニバル実行委員会

会場：八海山麓スキー場

5、収益事業

1) 売店収入

企画展、ワークショップなどと連動し、作家の小作品、画集、写真集、図録、DVD、関連グッズなどをショップに飾り、売上アップを図りました。委託販売のグッズも取り揃え、ショップを充実させました。

2) 喫茶収入

エントランスホールからの景色を鑑賞しながら飲む一杯のコーヒーのおいしさをアピールして売り上げをのばしてきました。最近は、リピーターに「イケビの珈琲はほんとうにおいしい」と声をかけられます。2011年からジェラートを扱い、2013年からは抹茶、2016年には冷抹茶をメニューに加え、新たな客層を呼び越こしてきました。2018年春からはコーヒーチケットを販売し企画展と連動して販売するなど、引き続き売上増を図ります。

3) スポーツカードショー収入

スポーツファン、スポーツカードファンとの交流を促進し、スポーツカード文化の啓蒙とさらなる向上を目指し収益を拡大しました。

① BBM スポーツカードショー2021春の陣 in 浦佐（池田記念美術館）

■2021年4月10日（土） 27名参加

② BBM スポーツカードショー2021秋の陣 in 浦佐（池田記念美術館）

■2021年12月11日（土） 25名参加

③ BBM スポーツカードショー2022冬の陣 in 浦佐（池田記念美術館）

■2022年1月29日（土） 12名参加

4) 委託販売手数料収入

収益事業として「南魚沼産コシヒカリ」の販売に取り組みました

6、その他

① 一箱古本市@池田記念美術館

■2021年7月17日（土）～8月1日（日）

■2022年1月6日（木）～1月18日（火）

個人が自分の古書をワイン箱に並べて販売するイベント。夏と冬に開催しました。本好きの間で話題になり、今では他の地域でも一箱古本市が開催されるようになっています。冬の開催は入館無料の期間中となり、多数の来館者となりました。企画を通して、本に関わる文化の魅力を発信しました。

② 八海山麓サンロックサマー

■2021年7月31日（土）～8月16日（月）

八海山麓スキー場で初めて開催された「八海山麓サンロックサマー」に協賛・参加し、高柳グルグルハウスから借用した風ぐるま3,500本を、地元の子どもたちから大人まで50人以上の手助けでグレンデに設置しました。同じく地元住民の協力で草むらに巨大迷路をつくり、柏崎市在住の作家・関根哲男氏の赤フン雪妖怪などユニークな作品140点余を展示しました。サマーイベントの目玉として大好評でした。

③ 出前授業

■2021年9月6日（月）

「八色の森の美術展+子ども絵画展」の一環として、オンラインによる出前授業を後山小学校で実施しました。全校児童14人が参加。東京在住の版画家・佐藤未来さんとZoomを使ってTシャツづくりを楽しみました。

④ 人形浄瑠璃の公演会

■2021年12月24日（金）～25日（土）

新潟県の助成事業「出前コンサート2021」に応募・採択され、人形浄瑠璃「猿八座」の公演会を開催しました。地元にある認定こども園の園児と職員を招いて実施し、2日間で172人の参加者がありました。

⑤ 雪見展

■2022年1月6日（木）～1月18日（火） 来館者数：1,991人（12日間）

真冬のクラフトマーケット。地元を中心に、手作りの雑貨や食品をつくっているショップや個人が集まり、自慢の一品を販売するイベント。フリーマーケットが少ない冬に開催することから、県外など近隣地域外からの出店も増えてきましたが、新型コロナウィルス感染症の流行で2021年は中止、2022年は規模を縮小して開催しました。

⑥ スポーツ＆ライフ南魚沼 スポーツ・文化講座

ベースボール・マガジン社新潟支社と連携して、地元在住の書家、花屋さん、写真家、インストラクターを講師にして、美文字、フラワーアレンジメント、写真、エアロビクス＆ヨガの教室を、年間を通して開催しました。

⑦ <施設提供>新潟日報カルチャースクール

毎月2回、休館日の水曜日に施設を提供し、仏像彫刻、ハーモニカ、太極拳、バテンレースの教室を開催しました。

⑧ 各種イベント等の開催・中止状況

ア、池田音楽クラブ「音を楽しむ集い」 【休止中】

毎月開催の「月例音楽会」と「フォークソングの日」

イ、<施設提供> 浦佐ホテルオカベ ウエディング

■2021年8月15日（日） 23名参加

■2021年8月21日（土） 44名参加